

中村けん後援会事務所 開所式挨拶文

みなさんこんにちは、中村けんです。

本日は、後援会事務所の開所式にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、この日を迎えるにあたり、本当に多くの方々にご支援・ご協力いただきました。

このままじゃダメだ。何とかしないといかん。みんなで今の西尾を変えよう。

たくさんのそのような熱い思いと共に、今、この場に立つことができます。

改めて御礼申し上げます。

さて、今回、市長選挙に臨むにあたり、様々な場所で声なき声を聴いてまいりました。

その中で一番感じたことは、今の西尾市は、市民の声をもっとしっかり聴き、もっとしっかり受け止める必要があるということです。

合併して6年になりますが、吸収合併だからといって、一色、吉良、幡豆のみなさんの声をないがしろにはしていないか。

公共施設の再配置を進めるにあたり、地域の声や関係業界の声に真摯に耳を傾け、住民のみなさんが本当に望む施設を造ろうとしているのか。

新たな産業廃棄物最終処分場の建設計画が持ち上がり、不安を感じる住民のみなさんの声に対して、誠実な対応をしてきたのか。

だからこそ、まずは市役所改革として、徹底した情報の公開と市民参加を進め、市民とともに西尾の未来を考えられる市役所にする。上下の上と書く「お上」ではなく、市民と同じ目線で物事を考え、市民の声が届く市役所にします。

それに加え、前例にとられるのではなく、積極的に新しいことにチャレンジできる、改革をおそれない組織にする。ほかの市町村でもやっているから西尾もやる、ほかの市町村ではやっていないから西尾もやらないという横並び意識では、これからの時代、西尾市は生きていけません。

新しいことに果敢にチャレンジをし、夢と希望の持てる西尾市にしたい。

そのような思いでいます。

そして、ただいま申し上げたような、市役所の体質改善と同時にやっていかなければならないことは、急速に進展する社会の少子高齢化に、どう対応していくかということです。

今後ますます減少する働き盛りの年代が、多くの高齢者を支える必要が出てきます。つまり、収入は減るけれども、福祉などの支出は増えることを意味しています。

このような状況の中で重要なことは、教育や子育て支援に力を入れ、一番税金を払い、一番お金を使う、いわゆる子育て世代の人口を増やすことで、まずは税收等の基盤をしっかりとさせることです。

私事になりますが、先月、一人目の子どもが生まれました。

20年先・30年先の西尾市の未来にも責任を持つ世代として、市民のみなさんの声をしっかり聴きながら、地に足の着いた教育政策、子育て支援策を展開していきます。

「子育てをするなら、やっぱり西尾だよな。」

そんな声が飛び交うようなまちにしていきたいと思います。

また、少子高齢化が進むことにより、車を運転することができないお年寄りが増えていきます。世間的には、高齢者は早く免許を返納すべきだというような風潮が無きにしも非ずですが、この西尾市で生活をしていて、車が運転できなくなるということが何を意味するのか。

現職の市長は、健康のためにも歩けばいいと言いますが、それは市街地に住んでいる人間の理屈です。自分自身が住む三和地区もそうですが、合併後の西尾市においては、公共交通のサービスが行き届いていない地域がたくさんあります。

電車、バス、乗合タクシー等の公共交通を充実させることで、市街地に住んでいても、田舎に住んでいても、住みよい西尾市を実現していきたいと考えています。

最後に、今回の選挙の争点でもある、西尾市方式PFI事業の見直しの是非、新たな産業廃棄物最終処分場の建設の是非についてお話をさせていただきます。

約200億円もの巨額な費用を使い、たった1社に最長30年もの長期にわたって委託するという本事業については、その全容に対して市民が情報公開請求しても、黒塗りで相当部分が開示されませんでした。また、地域の拠点となる施設を壊し、新たなスポーツ施設や10階建ての市営住宅を作るなど、いわゆるハコモノ中心の面も多く、市民感情からも到底納得のいかない事業と言わざるを得ません。

公共施設の統廃合や民間委託そのものを否定するつもりはありませんが、あまりに市民の声を聞かず、あまりに無駄が多い西尾市方式PFIは、いったん凍結し、市民の声を聞きながら、全面的に見直したいと思います。

ハコモノに依存するのではなく、ハードよりもソフト、未来にツケを回さない、責任ある政治を心がけてまいります。

一色町に計画されている新たな産業廃棄物最終処分場の建設については、漁業への影響や震災時の液状化による影響が懸念されます。選挙が近いから反対するのではなく、市議会議員の時から一貫して、明確に反対してきました。建設を断固阻止するため、県への積極的な要望を続けてまいります。

三河湾の美しい環境を、何としてでも守らなければなりません。

会場にお集りのみなさま方、遅ればせながら本日、無事に事務所を開くことができました。この事務所は、多くの方々の生の声を聴き、語り合う拠点となる場です。

ご家族、ご友人、会社の同僚、小さなお子さんも連れて、気軽にお立ち寄りいただき、一緒に西尾の未来を考えましょう。

そして、みんながワクワクするような西尾の未来を、一緒に創っていきましょう。

本日は、開所式にご参加いただき、ありがとうございました。